

# 平成28年度 医学振興銀杏会総会開く



採択者一同と岸本理事長

平成28年度の医学振興銀杏会総会は、例年通り5月の最終土曜日に銀杏会館にて開催された。降り始めた雨の中、



## 第245号

公益社団法人  
医学振興  
銀杏会

(編集同人)

川越也 萩原俊男  
門田守 米田正太郎  
杉本央次 武田雅典  
上田啓正 野村尚幸  
木村英一 黒馬長子  
森井英一 馬場幸子

祝の意が表された。公益社団

医学部正面玄関前の佐多・楠本両博士の胸像に役員による献花が行われ、引き続き開かれた級会・支部交流会では、各支部・級会・学内から各々の近況が報告された。

総会では早石雅有副理事長の司会で開始され、書面による議決権行使を含め全代議員306名中82%の252名の参加を得て本総会が成立したことが報告された。岸本忠三理事長は、多くの同窓生によって長い歴史を重ねてきた阪大医学部の一層の発展を当会が側面から支援すること、人工知能やインターネット等の発達により如何に医学・医療や社会が変化したとしても直接顔を合わせることの重要性は変わらず、そのための場として当会の更なる発展に力を注ぐことを述べられた。昨年の総会以降の物故者114名に黙祷を捧げ、勲章受章者・学術賞受賞者への慶祝の意が表された。公益社団

法人の議事として、渡邊幹夫理事より平成27年度の事業・会計報告、阿部源三郎監事より監査報告が行われ、承認された。続いて平成28年度の事業計画・予算案が説明され、次期の代議員も承認された。

引き続き、楽本宏実理事により地域医療に関する研究助成の採択者3名と岸本基金奨学助成金の採択者12名、学友会奨学金の採択者15名への授与式が行われた。

総会の後、医薬基盤・健康・栄養研究所理事長の米田悦啓阪大名誉教授が「核と細胞質の対話の仕組み」と題して、核移行シグナルの発見から老化につながる研究の発展を、恩師岡田善雄先生との思い出や医学部、細胞工学センターの変遷と重ねあわせてご講演された。続けて、澤芳樹医学系研究科長、野口眞三郎附属病院長、高島庄太夫保健学科長、松浦善治微生物病研究所長、近藤滋生命機能研究科長から、学内の現状が報告された。その後、銀杏クラブにて懇親会が開かれ、多くの学生や若手会員を交えて世代を超えた歓談が続いた。

## 研究助成の公募

当会では、今年度も公益事業の一環として、下記の研究助成を行います。

連絡先 (FAX) 06-6879-3503

(メール) office@ichou.med.osaka-u.ac.jp

### ▶地域医療に関する研究助成

対象 地域医療に貢献している病院・施設で行われている疾病の診断・治療等に関する研究をしている若手研究者(40歳未満)への助成

募集期間 9月1日～11月30日

助成額 1件50万円程度

助成件数 3～4件

### ▶平成28年度国際学術交流助成(後期分)

内容 外国で行われる国際学会等(9月1日～平成29年3月31日の間に行うもの)において成果発表をされる若手研究者への渡航費用助成。詳細は当会ホームページ <http://ichou.or.jp/> をご覧ください。

募集期間 10月1日～11月30日

## 第28回シンポジウム

### 『地域医療の課題とその対策』開催のご案内

開催日 平成28年10月14日(金)午後3時開会

会場 銀杏会館3階 阪急・三和ホール

テーマ 「新専門医制度」

基調講演 千田彰一先生(香川大学 名誉教授・徳島文理大学)

講演後、演者・コメンテーター・参加者によるディスカッション

懇親会 銀杏会館2階 レストランミネルバ

(要旨) 新たな専門医の仕組みは、「患者の視点に立ち、専門医の質の一層の向上」を基本理念とし、それぞれの基本診療領域において「安全で標準的な医療を提供でき、患者から信頼される医師」を育成することを目的として構築された。その改革骨子は、「研修プログラム制」の導入、診療実績の重視、機構の新基準による専門医の認定・更新、総合診療専門医の創設、基本とサブの2段階制である。1年間立ち止まって、医師育成と医療提供の仕組みをどう改革推進するか考えたい。※参加ご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

**平成27年度秋の叙勲**

瑞宝中綬章 瀧端 孟先生 (昭35・阪大歯)	日本医師会最高優功賞 金澤 豊純先生 (昭32・大阪医大)
瑞宝中綬章 泉 太先生 (昭39)	日本医師会優功賞 清野 佳紀先生 (昭40)
紫綬褒章 狩野 方伸先生 (昭57・東医歯大)	日本医師会優功賞 児玉 浩子先生 (昭45)
	日本医師会優功賞 茂松 茂人先生 (昭53・大阪医大)

**平成28年度春の叙勲**

瑞宝中綬章 谷口 直之先生 (昭42・北大医)	日本医師会医学賞 磯 博康先生 (昭57・筑波大医)
-------------------------	----------------------------

**平成27年度受賞**

文部科学大臣表彰科学技術賞 古川 貴久先生 (昭63)	日本医師会医学賞 岩井 一宏先生 (昭60・京大医)
日本対がん協会賞 今岡 真義先生 (昭40)	上原賞 吉森 保先生 (昭56・阪大理)

**次期役員選挙にかかる候補者への立候補・候補者ご推薦のお願い (公示)**

公益社団法人医学振興銀杏会 役員選挙管理委員会 委員長 北 嶋 省 吾

本会の現役員 (理事・監事) 任期は、来年の平成29年5月27日開催予定の社員総会終結時をもって満了します。「役員選挙規則」に従い、下記の通り次期役員選挙を実施することをここに公示します。

- ①全会員から次期役員への立候補ならびに候補者推薦を公募 (下記のご案内)
- ②当会代議員である先生方による選挙 (平成29年1月に郵送で実施)
- ③平成29年5月27日の総会にて承認

次期役員への立候補もしくは次期役員に適任と思われる会員のご推薦を書面にて受け付けます。下記事務局へご連絡いただきましたら、所定の用紙をお送りします。(当会 Web ページ、<http://www.ichou.or.jp/> から用紙をダウンロードいただけます)

なお、規則により役員は特定の年齢層や職種 (大学・公的病院・開業医等) に偏らない選出が必要です。ご配慮の上、幅広い立候補・ご推薦をお願い申し上げます。(複数人ご推薦いただいても結構です)

立候補・ご推薦の締め切りは **10月31日 (必着)** とさせていただきます。

**事務局 (連絡先および提出先)**

〒565-0871 吹田市山田丘2-2  
 公益社団法人医学振興銀杏会  
 (大阪大学医学部学友会)  
 TEL: 06-6879-3501 FAX: 06-6879-3503  
 E-mail: office@ichou.med.osaka-u.ac.jp

※役員 (理事・監事) の職務: 理事会 (定例理事会は年2回) および定時社員総会への実出席。監事はさらに4月の会計監査を実施。

**別表: 役員の定数**

(年齢は、平成29年4月1日現在)

理 事 15～20名	45歳以下	2～4名
	46歳～55歳	4～6名
	56歳～65歳	4～6名
	66歳～77歳	2～4名
監 事 2～5名	55歳以下	0～2名
	56～65歳	0～2名
	66歳以上	0～2名

**業務執行理事の業務分掌**

助成	助成事業の企画立案及び実施、助成金授与式
情報	銀杏メディカルネットの運営、名簿の作成、ML・メールアドレスの統括
広報	ニュース編集・発行、この法人の事業内容の広報・周知
学術	会誌の編集・発行、シンポジウムの企画・実施
会計	歳入、歳出の予算及び決算に関する事項、会費の徴収、経費の支出、預貯金及び金銭の保管、理事会・総会における予算・決算報告
庶務	会議の開催、渉外、慶弔、文書の作成並びに保管ほか、いずれの分担業務にも属していないもの

## 寄 附 御 礼

平成28年4月1日から平成28年8月4日までに24,201,000円のご寄附を頂き、誠にありがとうございました。公益社団法人への移行に伴い、平成23年4月1日より当会へのご寄附は個人・法人とも税金控除の対象となります。

詳細に関しては、当会事務局までお問い合わせください。

林 威三雄 先生 (阪大医 昭25専) より 50,000円をご寄附頂きました  
 栗村 統 先生 (阪大医 昭28) より 1,000,000円をご寄附頂きました  
 川越 裕也 先生 (阪大医 昭30) より 30,000円をご寄附頂きました  
 吉田 静雄 先生 (阪大医 昭30) より 50,000円をご寄附頂きました  
 江部 高廣 先生 (阪大医 昭35) より 50,000円をご寄附頂きました  
 中尾 量保 先生 (阪大医 昭35) より 50,000円をご寄附頂きました  
 岸本 忠三 先生 (阪大医 昭39) より 20,000,000円をご寄附頂きました  
 萬谷 雅宣 先生 (阪大医 昭39) より 50,000円をご寄附頂きました  
 佐藤 信紘 先生 (阪大医 昭40) より 30,000円をご寄附頂きました  
 松山 辰男 先生 (阪大医 昭40) より 30,000円をご寄附頂きました  
 正木 英晴 先生 (阪大医 昭43) より 50,000円をご寄附頂きました  
 島田 政則 先生 (阪大医 昭46) より 50,000円をご寄附頂きました  
 寺川 直樹 先生 (鳥取大医 昭46) より 100,000円をご寄附頂きました  
 下村 英二 先生 (阪大医 昭49) より 50,000円をご寄附頂きました  
 中尾 治義 先生 (阪大医 昭51) より 50,000円をご寄附頂きました  
 審良 静男 先生 (阪大医 昭52) より 50,000円をご寄附頂きました  
 細谷比左志 先生 (阪大医 昭58) より 20,000円をご寄附頂きました  
 山崎 勝彦 先生 (阪大医 昭59) より 50,000円をご寄附頂きました  
 乾 一郎 先生 (阪大医 昭63) より 10,000円をご寄附頂きました

21名の先生より金一封をご寄附頂きました

竹谷修太郎 先生 (阪大医 昭23専)	柴 秀雄 先生 (阪大医 昭24専)
岩永 剛 先生 (阪大医 昭30)	渡部 泰夫 先生 (阪大医 昭33)
高安 進 先生 (阪大医 昭36)	名迫 行康 先生 (阪大医 昭36)
伏見 尚子 先生 (阪大医 昭36)	森本 靖彦 先生 (阪大医 昭36)
早石 誠 先生 (阪大医 昭40)	早石 雅宥 先生 (阪大医 昭42)
山西 弘一 先生 (阪大医 昭42)	荻原 俊男 先生 (阪大医 昭43)
波田 壽一 先生 (阪大医 昭44)	河井 秀夫 先生 (阪大医 昭50)
林 英昭 先生 (阪大医 昭52)	満田 基温 先生 (阪大医 昭53)
吉原 治正 先生 (金沢大医 昭54)	澤田 敦 先生 (阪大医 昭61)
横田 貴史 先生 (鳥取大医 平3)	齊藤 純 先生 (阪大医 平15)
森 久美子 先生 (阪大医 平16)	

匿名の会員様より 10,000円のご寄附を2件頂きました

匿名の会員様より 20,000円のご寄附を1件頂きました

匿名の会員様より 30,000円のご寄附を2件頂きました

匿名の会員様より 50,000円のご寄附を5件頂きました

匿名の会員様より 100,000円のご寄附を2件頂きました

匿名の会員様より 500,000円のご寄附を1件頂きました

9名の会員様より金一封のご寄附を頂きました

大阪大学同窓会連合会より 51,000円のご寄附を頂きました

公益社団法人 医学振興協会

## 正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	当年度内訳		
			公益目的事業	共益事業	法人会計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	1,609	4,950	1,609	0	0
特定資産運用益	111,713	45,646	110,432	1,281	0
受取会費	26,130,000	25,690,000	14,100,000	5,180,000	6,850,000
事業収益	4,763,800	527,000	250,000	4,513,800	0
受取寄附金	121,000	129,000	60,000	61,000	0
受取寄附金振替額	16,676,048	14,693,728	16,676,048	0	0
雑収益	293,786	221,787	786	0	293,000
他会計からの繰入額	0	0	0	0	0
経常収益計	48,097,956	41,312,111	31,198,875	9,756,081	7,143,000
(2) 経常費用					
支払助成金	21,100,000	21,900,000	21,000,000	100,000	0
支払寄附金	0	0	0	0	0
地域医療ネットワーク費	285,532	316,089	285,532	0	0
通信運搬費	4,740,821	1,988,484	335,141	3,833,405	572,275
印刷製本費	5,887,995	2,197,833	1,268,144	4,537,179	82,672
コンピューター費	67,138	24,464	67,138	0	0
給与手当	10,221,531	9,768,269	6,132,919	1,022,153	3,066,459
退職給付費用	800,000	0	480,000	80,000	240,000
福利厚生費	2,616,213	2,470,079	997,134	166,189	1,452,890
旅費交通費	466,590	452,630	269,228	44,718	152,644
消耗什器備品費	0	13,040	0	0	0
消耗品費	38,589	7,838	32,951	0	5,638
修繕費	0	0	0	0	0
光熱水料費	150,288	161,091	75,144	0	75,144
支払手数料	557,120	612,293	120,424	2,768	433,928
減価償却費	141,639	136,755	141,639	0	0
会議費	940,166	918,646	0	0	940,166
研修費	0	0	0	0	0
新聞図書費	11,941	14,670	0	0	11,941
雑費	24,840	24,840	0	0	24,840
経常費用計	48,050,403	41,007,021	31,205,394	9,786,412	7,058,597
評価損益等調整前当期経常増減額	47,553	305,090	△ 6,519	△ 30,331	84,403
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	47,553	305,090	△ 6,519	△ 30,331	84,403
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
固定資産売却益	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
固定資産売却損	0	1	0	0	0
経常外費用計	0	1	0	0	0
当期経常外増減額	0	△ 1	0	0	0
当期一般正味財産増減額	47,553	305,089	△ 6,519	△ 30,331	84,403
一般正味財産期首残高	87,089,996	86,784,907			
一般正味財産期末残高	87,137,549	87,089,996			
II 指定正味財産増減の部					
受取寄附金等	30,002,500	20,001,250	30,002,500	0	0
一般正味財産への振替額	16,676,048	14,693,728	16,676,048	0	0
当期指定正味財産増減額	13,326,452	5,307,522	13,326,452	0	0
指定正味財産期首残高	12,101,732	6,794,210	12,101,732	0	0
指定正味財産期末残高	25,428,184	12,101,732	25,428,184	0	0
III 正味財産期末残高	112,565,733	99,191,728			

ホームページでも公開しております。ホームページアドレス→ <http://www.ichou.or.jp/joho.html>

# 医学部長通信 第6回 澤 芳樹 (昭55)

## 「Challenging, Sustainable そして Tough」な大阪大学医学部の発展のために

近年、科学やICTが進化し日常生活のQualityが向上する一方で、世界を震撼させる地球規模の大事件や抗争、地球環境や気象の変化によって、世界の未来予想図は暗く不安なものになりつつあります。このような激しい世界の中で、今後一層、GlobalにInnovativeにそしてTranslationalに大阪大学医学部が発展するためには、いまだ大変重要な時期にさしかかっているかと考えます。現執行部で掲げております「Challenging, Sustainable そして Tough」な大阪大学医学部のために、平成28年度の医学系研究科の活動現況を報告させていただきます。

**人事**については、医学統計学および脳神経外科学が選考中であります。また新領域としまして、現在最も力を入れております、バイオインフォマティクスのより一層の充実のために、がん分野のゲノム系の人事を行いたいと考えて選考を開始いたしました。

**組織体制整備**としましては、昨年整備をはじめました医学系研究科と病院との横断的統括実践組織としてBioinformatics, Global Health, 産学連携Cross Innovationの3つのInitiativeを今年は一層充実したいとおもっております。特にバイオインフォマティクスイニシアティブ(菊池ディレクター)においては、研究～臨床におけるゲノム解析体制を学内各部署とともに構築し、血液サンプリングからゲノム解析をおこない電子カルテと融合しうる仕組み、そして将来的には、企業との連携が可能な仕組み作りを完成させたいと考えております。グローバルヘルスイニシアティブ(金田ディレクター)は順調に教育、研究、臨床にわたるグローバルヘルスを推進しております。一方、産学連携クロスイノベーションイニシアティブでは現在11の企業団体と包括連携契約を行い、従来無いオープンイノベーションによる産学連携を進めております。さらに、臨床研究中核病院として国内で最も強いAROの仕組みを作るべく、4番目の臨床研究中核イニシアティブも立ち上げました。

**人材育成**としましては、MDの基礎研究者を増やすため、学位取得後基礎医学研究を志すMDに未来医学特任助教を設置し、MDが基礎研究に没頭できる制度を4月より開始しました。さらに修士課程を改革し、バイオインフォマティクスや医学統計学等の新たな医療人材を育成し、キャリアパスの明確なProfessional人材養成プログラムを平成29年度より開始します。学部教育では、Native Speakerの専任教官を雇用し、医学教育の国際認証を受けて英語教育、海外派遣プログラム(各学年学部生の50%を目標)等に力を入れ、学年ごとの学部生と医学部長との学生対話を行っています。

**研究体制整備**では、ゲノム解析(がん、循環器、神経・難病等)や臨床研究体制、オートファジー領域、再生領域、免疫・再生領域、AIやDeep Learning等の脳科学領域の研究強化を推進しております。

**都心部拠点確保**も重要と考えており、箕面地区の健康スポーツ科学を中心としたオリンピック拠点整備事業や、中之島における大学本部の中之島アゴラ構想にどう参加するかなど、今後の医学系研究科の都心部における拠点の役割を議論しております。

以上が、28年度の活動現況の一部ですが、「先見性・合理性・行動力・人の和」をモットーに、チーム阪大医学部のさらなる発展を目指して、みんなで仲良く「和気満堂」で運営させていただければと思います。学友会の先生方には、今後ともご指導ご支援のほどよろしくお願いいたします。

### 助成事業採択者一覧(敬称略。平成28年5月28日総会にて授与式を執り行いました)

#### 1. 平成27年度 地域医療に関する研究助成、3件、各50万

岡崎周平：脳主幹動脈閉塞性病変を有する急性期脳梗塞・TIA患者を対象としたMRI3D Arterial Spin Labeling 灌流イメージング法を用いた脳血流評価法に関する研究

西田陽子：都市部在住の一般住民における皮膚乾燥の要因としての痛痒と炎症マーカーの検討

波多野浩士：尿中分泌型ガングリオシドの新規前立腺癌バイオマーカーとしての意義

#### 2. 平成28年度 学友会奨学金 15件、各20万円

学部学生：青木政尚、李 福章、金 永鈺、柴田明有美、柴田真人、寺本将行、長沢晋也、橋本泰成

大学院生：石垣佳祐、坂口直哉、島井良重、瀬尾政貴、鳥形未来、中路 拓、平賀慎一郎

#### 3. 平成28年度 岸本基金奨学助成金採択者 12件、1年次：60万円、2年次～6年次：120万円

(1年次)なし(2年次)竹内太郎、田上陽菜、水野 彰(3年次)辻井敦子、光田 紬、山田美樹(4年次)鬼追芳行、朴 正薫(5年次)小林政雄、長野広通(6年次)島上 洋、松本紗矢香

#### 4. 平成27年度 国際学術交流助成 16件、各5～25万円

有馬大貴(統合生・米) 岩橋 潔(消化内・米) 梅田 聡(小成育・米) 小野寺俊晴(代謝内・加) 櫻山紀幸(心血外・米) 金山完啓(整形外・米) 河村 愛(心血外・英) 小泉花織(産婦人・米) 申 智勲(代謝内・加) 高野浩司(脳神外・米) 立石和博(分子生・米) 那波伸敏(小児科・米) 波多 豪(消化外・米) 森 大輔(腎臓内・米) 安井行彦(整形外・米) 山田涼子(消化内・米)

# トピックス

## フレイルとサルコペニア

Frailty は、Robust (頑健、健康) に対応する用語で、Disability (障害) に至る前の段階でもある。最近の高血圧治療のガイドラインや大規模介入研究の後付け解析では、Fit elderly と Frail elderly による違いの有無も示されている。従来、Frailty は「虚弱」、「老衰」、「衰弱」、「脆弱」などと訳され、加齢に伴って不可逆的に古い衰えた状態という印象が強かった。しかしながら、図に示すように適切な介入や支援により健康な方向に戻りうる状態であり、医療従事者だけでなく、国民の多くが理解して自らが予防、早期発見、早期介入に取り組む必要がある状態である。新しい概念として広く啓発することを目的に日本老年医学会が中心になって新しい訳が検討され、2014年に覚えやすさと重視で形容詞の Frail をカタカナで表現し

た「フレイル」を frailty の意味として用いることが提唱された。以後、様々な場で使われるようになり、ニッポン一億総活躍プランにも、高齢者のフレイル段階での進行停止(フレイル対策)という記載が盛り込まれている。定義はまだ定まらなかったものはないが、簡便さの点で、①意図しない体重減少、②疲れやすさの自覚、③活動量低下、④歩行速度の低下、⑤筋力低下の3項目以上をフレイルとする Fried の基準がよく用いられる。40項目近い身体機能や病態の有無も含めた項目を用いた基準もある。

サルコペニアは、ギリシア語の「肉」を表す sarx (sarco: サルコ) と、「喪失」を意味する penia (ペニア) を組み合わせた造語で、進行性かつ全身性の筋肉量と筋力の減少によって特徴づけられる症候群である。フレイルに関する Fried の基準の③④⑤の項目が構成因子である。サルコペニアには加齢性以外に、廃用などの身体活動低下によるもの、低栄養によるもの、高度な臓器障害(心不全や COPD など) や炎症性疾患などの疾患に伴うものがある。原因が明確な場合はその対処が優先される。加齢性の場合も様々な要因が重なっていることが多く、現状では運動や栄養管理が重要とされる。咀嚼に関する咬合力がロイシン、インロイシン、バリンなどの蛋白摂取不足と関連して、歩行速度低下といったサルコペニアの指標と関連するという報告もある。

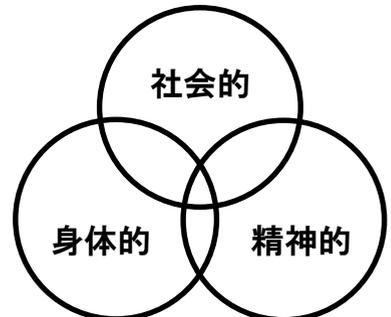
サルコペニアもフレイルも健康長寿達成のための有用な介入ポイントであり、新しい概念を理解して高齢者を診療する時代が到来したといえる。

老年・総合内科学

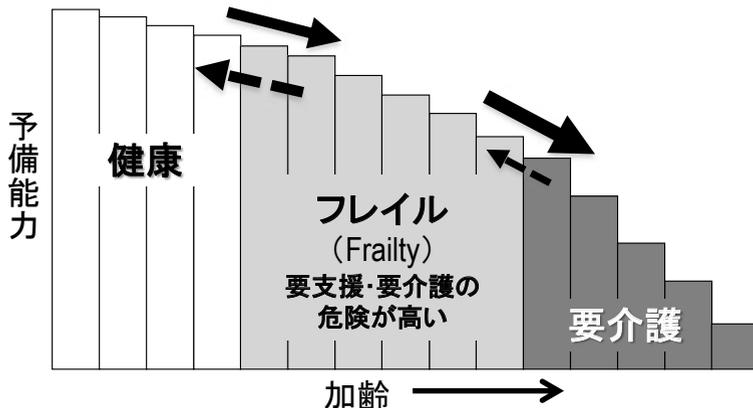
楽木宏実(昭59)

### フレイルの多面性

閉じこもり、孤食



低栄養、転倒  
口腔機能低下  
意欲・判断力・認知機能低下、うつ



多くの高齢者がフレイルという中間段階を経て徐々に要介護状態に陥る。フレイルは、適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能。

提

言

病院死と自宅死の話題が最近よく取り上げられている。1960年頃は自宅での死亡が70%程度を占めていたが、2000年頃からは病院死が80%近くを占め、自宅死は10%少なくなってきている。最近

は病院死が少し減少したが、僅かである。一方、国民の終末期の療養場所の自宅希望は60%以上である。外国の状況は、米国、英国、ドイツなどでは病院死は50%程度、ノルウェーは80%であるが我が国とはシステムがかなり異なっている。症状が安定すると施設に入所あるいは戻る道筋が定まっているので、平均在院日数が短い。我が国の病院死の割合は世界的に見て非常に高率である。原因は何であろうか。

病院死の増加の要因は幾つか言われている。一つは病院が行われることとなり、輸液等多数のチューブが身体にながら、いわゆるスパゲッティ症候群の状態となる。次に費用の点が挙げられている。我が国の高齢者の入院費用は

高くない。しかし、最近はず療報酬改定の度に個人負担費用が少しずつ高くなっている。その他に、命は長い方が良いとの認識も挙げられる。人口動態統計によると死亡

しているようである。今後、高齢化が進みます進行する中で、このまま老衰と自宅や施設での死亡が増えてゆくのがあるのか。病院死の数が劇的に減少するとは考えづらい。

いずれにしても希望のない濃厚治療が良いとは限らない。自分の死生観をもち、周囲に伝えておく必要が強くも、治療方針を決める上で望ましいことである。

米田正太郎(昭45)



...その 146

アメリカ共和党大統領候補のトランプ氏が、「何故、わが国民を犠牲にして日本国を守らねばならないのか?」という発言。この流れはイギリス(EU離脱)、ドイツにも波及し、難民のために自国の職域が奪われ、「被害甚大であり受け入れ難い」の機運が

国は、国境はあつて無きが如しの状況で過剰してきまし。極めて乏しい危機意識に埋もれている我々日本人のグローバル感覚は如何なものでしょうか?中国軍船の尖閣諸島

グローバル救世主

高くなっています。「自分達高くなっています。自分達のこととは自分達で解決すべし」頼っているは何も解決しない!、「我が身は、我が身で守るのが当然」という警告?周囲が海で囲まれる日本

周辺接続水域への航行や戦闘機による戦闘態勢?もどきの飛行、ダッカでの日本人7人の殺戮テロ等、激変の社会状況でリスクが山積!

ローバルな目を持つことは不可欠でありましょう。しかし、我が国からの留学生は激減しています!アメリカに留学する優秀な人材に対して、中国、インドは優秀な人材の海外流出を防ぎ本国での活躍を期待します。自国の力で富国を

る時代になり、充分な情報を持たせたロボットが人間(外科医)を越す小腸吻合を行なったという論文も出ました。また、人工知能はディープラーニングも可能となり囲碁もプロ棋士を打ち負かしておりますが、一方では、人工知能を積んだ車が事故を起こしている

大阪大学は優れた外国語学部を有する世界有数のグローバル大学です。ここに学んだ医師は、優れた人間特有の感性に加え、世界の人々と多面的、多様の、有機的に対応できる力を充分備えた医師として、世界の世を救う「グローバル救世主」となることを願うものです。

次は、八尾市立病院総長 佐々木洋先生(昭51)にお願いしました

今岡真義(昭40) NTT西日本大阪病院 総長

診	療
科	科
紹	介

# 消化器内科

がんの発がんメカニズムの研究、肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルス研究、炎症性腸疾患に関する免疫学的な研究などに力を入れていきます。臨床との接点を大切に、病態研究や創薬研究に尽力していきます。

阪大消化器内科の同窓会は旧第一内科、旧第二内科、旧第三内科の各消化器研究室の流れをくんでいますが、現在750名の同窓会員になっています。大阪・阪神間の消化器内科診療と若手の教育を支える最も伝統ある組織です。最近では女性医師の出局も約3分の1になっており、全国の医学部の学生の比率とほぼ同じですから、若手女性医師にとっても人気のある医局だと思っております。

学友会の先生方におかれましては、今後とも阪大消化器内科をよろしく願っています。

次は、循環器内科の坂田泰史先生にお願いしました。

竹原徹郎(昭59)

消化器内科学教室は平成17年に開講し、昨年10周年を迎えました。平成23年から、私が初代林 紀夫教授の後任として教室を主宰しています。研究グループは大きく肝胆膵グループと消化管グループに分かれています。一つの消化器内科が教室のモットーであり、教室員の一人一人がすべての消化器内科疾患に責任を持って当たるよう教育・指導しています。

極的に診療しています。肝胆膵がんに関しては、従来から膵がんに加えて、膵がんの患者さんの増加が顕著です。消化管がんは特に食道がんの患者さんが増加しています。内視鏡診療に関しては、食道がん、胃がん、大腸がんに対するEGJ(内視鏡的粘膜下層剥離術)、膵疾患に対するEUS-FNA(超音波内視鏡下穿刺吸引法)、小腸疾患に対するDBE(ダブルバルーン内視鏡)などに積極的に取り組んでいます。近年、この診療科でも共通の現象もみられますが、患者さんの高齢化がすすんでいます。消化器病診療でも低侵襲治療に対する需要が増大しており、幅広い患者さんを診断から治療まで担当しています。

常時在籍していますが、毎年そのうち10名程度が関連病院との間で人事交流しています。関連病院は大阪府下・阪神間の主要病院を網羅しており、概ね30程度にのびています。教室と関連病院は、診療もちろんのこと多施設臨床研究の実施や若手医師の教育で密接に連携しています。臨床研究では、肝臓領域、消化管領域、胆膵領域を対象に、それぞれOLF(Osaka Liver Forum)、OGF(Osaka Gut Forum)、OPF(Osaka Pancreas Forum)という組織が活発に活動しています。日本の肝炎・肝がん診療のエビデンスの構築や内視鏡診療の発展に大阪発の研究成果が数多く生かされています。

基礎研究に関しては、発生工学的な手法を用いた消化器

